新たな造形テイストへの挑戦

— ワクワクする飽きのこないデザインをもとめて —

New Design Taste, Mathematical Surface “*Surimen*”

— Aiming at Realization of Toyota Design Philosophy, “Vibrant Clarity” —

執筆者プロフィール

上崎 浩子

Hiroko UEZAKI

■1996 年名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学修了

■主として行っている業務・研究

・デザイン訴求を主としたコミュニケーション活動

■勤務先

トヨタ自動車（株） グローバルデザイン統括部主任

（〒471-8572 愛知県豊田市トヨタ町1）

E-mail : uezaki@design.tec.toyota.co.jp

1. はじめに

トヨタ自動車（株）（以下、当社）より昨年11月に発売した「iQ」は、軽自動車より400mm以上も短いボディに大人3名、子ども1名の乗車を可能とする超高効率パッケージを特徴としている。「小さくても価値ある存在」として自動車の新しいジャンルを提案し、2008-2009日本カー・オブ・ザ・イヤーをいただいた。

「iQ」開発当時は、3mを切った超小型ボディに卓越した性能を凝縮するため、クルマづくりの既成概念を覆す

ような画期的な技術革新が求められており、当然、われわれデザインにも従来のコンパクトカーの枠を越えた質の高い、斬新な造形が要求されていた。その期待に応えるべく「iQ」デザイナーは数え切れないほどのアイデアスケッチを提案したが、「従来のクルマを小さくしただけ」という印象から脱却できず、悪戦苦闘していた。

2. トヨタDNA「j-factor」

トヨタデザインはカスタマーファーストの考えのもと、多種多様化する世界中のお客様のニーズに一つひとつ応えながら、将来を見据えた独自性のあるデザインを追求している。現在当社は90近くのボディタイプを有するが、それぞれの車両に明確な特徴をもたせ差別化を図りつつ、全体に一貫したオリジナリティを感じさせるデザインの提案を目指している。トヨタデザインの目指す一貫性とは、イタリア車に代表されるようなエモーション重視でもなく、また、ドイツ車に代表されるようなクリーンでドライな面質が特徴的な合理性重視とも異なる、日本固有の価値観である。

たとえば、全く異なる二つの価値「A」と「B」があった場合、それらに対立や妥協させるのではなく、「A」「B」それぞれのもつ価値を失うことなく「調和」させ「純化」させ新しい価値を創造する（図1）。このような手法は過去から現在に至るまで日本に多く見られ、たとえば和食と洋食の良い点を融合した明太子スパゲッティや、漢字の意味を失うことなく簡素化

したかな文字などが良例だろう。トヨタデザインはこのような日本独自の価値観を「j-factor」と名づけ、エモーションと合理性を高次元で調和させた、乗るたびにワクワクする飽きのこないデザインを追求し、世界中のお客様の心に届くメッセージの実現を目指している。詳細は当社HP (<http://www.toyota.co.jp/jp/vision/design/index.html>) をご覧いただきたい。

3. 数理面

「iQ」デザイナーは新しい造形表現への挑戦の一つとして、二つの相反する要素、幾何学的なさわやかな面質に、人の手で作り込む味わいを併せ持つ「Freeform Geometrics」を追求していた。ただこの造形表現はなかなか正解が見つからず難儀していた。

デザイナーはあらゆる分野にアンテナを張り巡らせ造形のヒントとする。理系の学生にはなじみのある、冷たい表情を呈する数理曲面ですら、アイデア源にしてしまうのだ。壁にぶつかっていた「iQ」デザイナーの目に留まったものはCADの立体解析用に、たまたまモニターに映し出されていた数理曲面だ。数理曲面にインスピレーションを受けたデザイナーは、すぐさまそれをラビットモデル化し、撮影スタジオで照明効果を駆使してアーティスティックな写真に昇華させた。これがきっかけとなった。数理曲面が呈する精緻なテイストや動きのある線質や面質を損なうことなく、車両のキャラクターラインとしてアイデアに織り込ん

j - factor

図 1 j-factor

でいった。

このような数値曲面をモチーフにした造形表現を当社内では「数値面」と名づけ、「iQ」外形ではフロント・リヤバンパー、ドア断面、クォータピラー部分に、内装ではセンタークラスターやアームレストなどに表現している。「数値面」を構成する面や線は、デザイナーの手馴れとは異なる、全く新しいテイストを感じさせ、トヨタデザインが追求している造形表現「Freeform Geometrics」の一つの解だと信じている。また、革新的なクルマ「iQ」にふさわしい、従来のコンパクトカーにはないダイナミックでボリューム感のある、質の高いデザインに仕上がったと自負している。「iQ」は2008年度グッドデザイン大賞を筆頭に、ドイツのiF product design award, red dot design awardなど世界的に権威あるデザイン賞を数多くいただくことができた。

4. デザインの役割

「数値面」は今年5月に発売した「Prius」にも継承されている。これからも新たな造形表現に挑戦し続け、機能と意匠が高次元で融合したデザインを創出していきたいと考えている。われわれデザインは企業の夢やメッセージをお客様のニーズと結びつけ、イメージを膨らませ「見える化」し、将来の持続可能な社会の実現に向け技術革新を促す、そうした役割を担っていると信じている。今後もトヨタデザインにご期待いただきたい。

図 2 TOYOTA iQ は数値曲面をモチーフとした造形表現を特徴としている
〔提供：トヨタ自動車（株）〕